

自己評価報告書

学校法人巨樹の会 八千代リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人巨樹の会 八千代リハビリテーション学院の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 平成31年(2019年)4月1日～令和2年(2020年)3月31日

令和2年7月31日

学校長 片山 薫

副校长 豊島 宇茂（評価実施責任者）

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的、方針

- ① 教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ② 自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③ 自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員（8名）※令和元年度委員

委員氏名	所 属
今井 基次	八千代リハビリテーション学院 校長
豊島 宇茂	八千代リハビリテーション学院 副校長
山口 純子	八千代リハビリテーション学院 事務部長
新垣 工	八千代リハビリテーション学院 理学療法学科 教務部長
橋本 知美	八千代リハビリテーション学院 作業療法学科 教務部長
奥田 裕	八千代リハビリテーション学院 理学療法学科 教務主任
金平智恵美	八千代リハビリテーション学院 作業療法学科 専任教員
長曾我部 強	八千代リハビリテーション学院 事務部 主任

（委員会は自己評価の実施、評価、検討のために隨時開催する）

3) 自己評価方法

令和元年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目I～項目Xの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1) 評定基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

S : 十分に達成している。 (達成度が高い)

A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)

B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)

C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

項目 I 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目 II 学校運営

項目 III 教育活動

項目 IV 学修成果

項目 V 学生支援

項目 VI 教育環境

項目 VII 学生の受け入れ

項目 VIII 財務

項目 IX 法令等の遵守

項目 X 社会貢献、地域貢献

項目 I 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等は、学生便覧・パンレット・Web サイト等で広く公表し、学生、受験生、関係者、教職員において共有できている。学則、カリキュラム、シラバスも公開している。

課題

継続して、教育理念・目標等を反映した教育課程の構築、改訂カリキュラムの運用を図る。

今後の方向性、方策など

養成施設指定規則改訂に応じたカリキュラム運営を教育理念・目標の観点から確認する。

小項目 I-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S

■コメント: 学校案内、ホームページ等で広く公表、周知している。

小項目 I-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: S

■コメント: ホームページ、刊行物等で、広く公表、周知している。

小項目 I-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S

■コメント: 臨床実習、就職活動、教育課程編成委員会等から把握した業界のニーズに対応する教育目標や人材育成像を教育課程に反映させている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

運営方針に沿って、適正、円滑に学校運営を行っている。

課題

継続してICT教育を推進し、学校運営に関わる情報化システムの構築を図る。

今後の方向性、方策など

情報システムの修正、構築など、学内の管理業務をより円滑にしていく。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: **S**

■コメント: 運営方針を策定して、部門会議、学内委員会・情報伝達システムなどで教職員に周知し、方針に沿った業務推進であることを、隨時、確認している。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: **S**

■コメント: 就業規則、業務分掌に則り、業務を推進。意思決定は、学校運営会議、学科会議、学内委員会等で行い記録し、伝達・周知を確認している。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: **A**

■コメント: 学事サーバーによる成績や情報管理を行い、メール等での学生への速やかな情報発信、出席確認などを行っている。業務管理システムは改良を検討している。

項目Ⅲ 教育活動

総括

卒業で得られる国家試験受験資格に見合う教育活動に努め、学修成果にも表れている。

更なる教育活動の向上を目指して取り組みを進める。

課題

理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂に対応した教育課程の実践を確認する。

授業評価の実施と結果の活用、教員個々の指導力育成が課題。

今後の方向性、方策など

改訂カリキュラムに沿った2020年度シラバスの運用と授業運営を進める。

ICT教育、アクティブラーニング推進に関する研修会など、教育力向上の取組みを継続する。

小項目Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: **S**

■コメント: 改訂カリキュラムに沿って学内にて検討し、教育課程の編成・実施方針を学校運営会議での確認の上で策定している。

小項目Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: **S**

■コメント: グループ病院の講師による実践的授業を実施。臨床実習は学校法人とグループ病院で共同開発した臨床実習システムにより行い、成果につながっている。

小項目Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: **B**

■コメント: 学生からの授業評価、教員間の授業評価ともに行っているが、その分析、活用が課題となっている。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S

■コメント: 国家試験を考慮し、初年次より重点科目を位置付け、卒業年次の学修指導、成績判定、対策学習指導を計画的、体系的に行い、成果につながっている。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント: 教育力・指導力を、学科責任者が評価して、専門技能の教授力と併せて資質向上を図る。教育力向上をはじめ、研修受講や研究を継続して推奨、蓄積していく。

項目IV 学修成果**総括**

卒業、国家試験、就職、資質向上を目指す教育活動ならびに修学支援を行い、良好な結果として理学療法学科(昼間)に次いで、作業療法学科も進級、卒業率が向上している。

課題

専門職へのモチベーションの維持・向上、能動的学習や生涯教育につながる学修方策、退学率の低減への取り組みなど、継続および更なる充実を図る。

今後の方向性、方策など

就学・学修支援、初年次教育、キャリア教育など多面的に学修成果につながる方策を検討する。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント: 多くの求人情報の掲示、就職説明会の開催やセミナーなどの就職活動支援を行い、開校以来 100%の就職率が続いている。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント: 国家試験を考慮した授業内容や学習方策、模擬試験の実施、国家試験対策学習を行い、今年度も全国平均を上回る合格率を継続している。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A

■コメント: モチベーションを高める初年次教育、担任制による修学サポートや面談、学生相談室の活用をすすめている。成績不振を防ぐ学修支援の体制を整備している。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

■コメント: 障害者イベント等の情報提供、教職員の参画・引率、学生のボランティア参加等を行い、それらの学生の社会的活動は把握している。

項目V 学生支援

総括

クラス担任制により学生とのコミュニケーションを図り、学生への支援および保護者との連携を密に行っている。高等学校等との連携も継続して行っている。

課題

モチベーションの低下、ストレスや不安を抱える学生への早い段階からの相談や支援、効果的な介入を行う体制を整備していく。

今後の方向性、方策など

学生の修学状況に関する報告、連絡、相談を速やかに行い、学生への関りが求められる教職員、部門での統一した、早期からの適切な対応を図る。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント: 就職支援委員会と担任を中心に体制を構築し、就職率 100%を継続している。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント: 担任の定期面談から、状況に応じて学科責任者との面談を実施する。

カウンセリング、臨床心理師による相談室を月 2 回開設している。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S

■コメント: 通知や説明会、面談等により適宜連携を図る。特に出席や単位取得、進級・卒業に係る事案は早期に連絡、保護者同席での面談を行っている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S

■コメント: 高校での進路授業やガイダンスへの協力、定期的な進路室訪問等により連携を図り、学校関係者評議での意見を反映した取り組みを行っている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A

■コメント: 教育課程に関する支援のほか、学生寮や通学定期などの生活面、奨学金相談窓口を整備し、特待生などの経済面でも支援制度を設けている。

項目VI 教育環境

総括

施設、設備・機器、学校保健・学校安全、臨床教育体制、防災体制などを整備して、学校評価等で毎年、確認している。

課題

防災、危機管理体制に関して、避難訓練の実施や計画の充実を図る。

今後の方向性、方策など

学校保健計画・安全計画の運用をすすめ、防災・危機管理マニュアルの整備を図る。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント: 設備、教材、図書等は基準以上であり、確認して年度毎に必要な整備を行う。

養成施設指定規則改訂に対応する設備機器を導入する。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S

■コメント: 臨床実習病院と共同開発した実習システムにより、指導体制やりハビリテーション環境が充実したグループ病院にて均質な臨床教育を行っている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: B

■コメント: 防災設備点検・管理、防災訓練等を行い、学校保健計画・安全計画等の周知をすすめている。防災・危機管理についてはさらなる整備を図る。

項目VII 学生の受け入れ、募集

総括

情報公開や広報活動の機会に適切な情報提供、学校案内に努め、入学定員を満たす学生の受け入れを継続している。

課題

適切な情報提供を継続していく。

今後の方向性、方策など

高等学校への入学者の修学状況の報告など、隨時、的確な情報の伝達や周知の状況を把握して、より連携を深めていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S

■コメント: 進路授業、高校訪問、推薦入試等による連携を通して、情報提供を行っている。
学校関係者評価においても情報提供のあり方を確認している。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S

■コメント: 資格取得、就職状況などの情報公開に加えて、国家試験対策の具体的な内容や過年度実績なども広く公表し、オープンキャンパスでも説明の機会を設けている。

項目VIII 財務

総括

財務基盤は安定しており、適正な収支計画のもとでの事業推進、会計管理を行っている。
法人本部の確認のもと、適正な財務運営を行っている。

課題

安定した財政基盤の維持。

今後の方向性、方策など

適正な収支計画による学校運営の継続、安定した入学者募集への取組み。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S

■コメント: 学校法人本部で中長期的財政予測を行い、理事会にて法人ならびに各校の財政基盤の安定を確認している。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S

■コメント: 学校法人ならびに各学校の年度事業計画・予算により、妥当な収支計画のもと、予算執行、事業遂行、会計処理を法人・各学校の双方で隨時確認している。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S

■コメント: 財務管理に関するチェックを隨時行い、定期的な法人本部からの会計管理、外部監査、理事会での審議を行っている。

項目IX 法令等の遵守**総括**

法令等を遵守した適正な学校運営を図り、第三者評価において認められている。

課題

理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂への対応について確認を行う。

今後の方針性、方策など

養成施設指定規則改訂に伴い、カリキュラムや臨床実習に関する対応をすすめて、適正な教育課程の構築を図る。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

■コメント: 関係法令、理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に準じて自己点検を行い、学校評価、第三者評価において確認して適正な運営に努めている。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S

■コメント: 個人情報保護規程に則り、情報は電磁的管理のもとで適正に運用を行っており、情報の漏洩は発生していない。

項目X 社会貢献・地域貢献**総括**

施設の提供、人材の派遣、ボランティア協力等の社会・地域貢献を行っている。

課題

社会・地域貢献の機会の確保と継続。

今後の方針性、方策など

社会活動の定着と支援体制を検討していく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: S

■コメント: 臨床実習病院、職能団体などへの会場提供をすすめ、学校イベントでの地域公開講座なども行っている。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S

■コメント: 地域の障害者イベントに教員が実行委員としての参画、学生を引率してのボランティア参加を奨励している。その他にも地域でのボランティアの協力依頼等を学内掲示により紹介して、推奨している。

以上